

平成 2 9 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	1 3		学校名		茨城県立大子清流高等学校				課程		全日制		学校長名		梶 清 史			
教頭名	浅 野 雅 裕												事務（室）長名		飯 岡 孝 行			
教職員数	教諭	3 5	養護教諭	1	常勤講師	3	非常勤講師	1 1	実習教諭，実習講師，実習助手		9	事務職員	3	技術職員等	9	計	7 1	
生徒数	小学科		1 年		2 年		3 年		4 年		合計		合 計 クラス数					
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女						
	農林科学学科		1 5	1	0	0	0	0	0	0	1 5	1	1					
	森林科学科		0	0	3	2	1 1	2	0	0	1 4	4	2					
	総 合 学 科		2 6	3 4	3 4	3 1	2 9	4 1	0	0	8 9	1 0 6	6					

2 目指す学校像

人間尊重の精神を基盤に，社会の変化に主体的に対応できる，個性的で創造性や国際性に富む，心豊かな人間を育成する。

- 1 一人ひとりの生徒を大切にし，対話を基本としたきめ細やかな指導を行う学校
- 2 自分の将来を深く考え，自分で進路実現できる能力をはぐくむ学校
- 3 地域と共生し，地域に根ざした教育を行う学校

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
進路指導の充実	進路実現に向けた努力, 意識付け及び体制づくりについては, まだまだ検討を必要とすることが多い。特に, 進路意識の不十分な生徒が多くみられ, 自分の将来像を自ら見だし, 実行できる生徒をどのように育てるかが大きな課題と言える。	100%の進路実現を目標とし, 「資格取得」を目指した指導, 習熟度別授業等, 個に応じた指導, 及び課外の充実を図る。
学校からの情報発信の充実	開校以来 11 年連続で国立大学に合格者を輩出していることや難しいと言われる地方公務員等に合格していることなどが, 地元・周辺地域にあまり理解・浸透されておらず, 水戸方面への生徒の流出が多い。 ウエイトリフティング部, レスリング部などの上級大会での活躍や進路実績は, 小規模校だからこそできるきめ細やかな指導の結果によるものであることをアピールして行く必要がある。	生徒数減少の中, 生徒数を確保するためにも, 中身の充実とともに情報発信をより積極的に行っていく必要がある。
生徒指導の充実	「生徒のために」を基本とし, 職員で知恵を出し合い, 一つの目標に向かって最善をつくる体制づくりに取り組んできた。良い方向に向かっていると考えられる。	きめ細かな指導, ことばかけ等を学校内外どこでも, 全職員で行う。

4 中期的目標

- 1 農林・森林科学科，総合学科(人文科学・自然科学・福祉系列)のそれぞれの学科の特性を活かし，一人ひとりの生徒の進路希望実現に努める。
- 2 地域からの期待に応え，地域を担っていくことができる人材の育成に努める。

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
生徒の自発的・自立的な学習態度の育成	・学習意欲を喚起するよう，授業展開の工夫を図る。 ・課外授業等への参加の促進，家庭学習の習慣化を図る。
学習指導体制の確立	・基礎学力を充実させ，夢の実現を目指すことができるようにする。 ・学科改編に対応した総合学科の授業体制の確立を図る。 ・新設の農林科学科(1年生)，森林科学科(2・3年生)，総合学科農業系列・福祉系列(2・3年)の実習の充実を図る。⇒「技」を磨く
生徒の基本的な生活習慣の確立と規範意識の高揚⇒「心」を鍛える	・生徒会活動，各部・各種委員会活動を通して「命の大切さ」や「豊かな人間性」を育む。 ・スポーツ活動・勤労体験・ボランティア活動などを通して「他人を思いやる心」の育成を図る。
進路指導体制の確立	・組織的・系統的なキャリア教育の充実を図る。 ・企業訪問・大学見学会・後援会等の実施により，職業観・勤労観の育成を図る。
保護者・地域との連携⇒地域社会への貢献	・「地域の声」の把握に努め，地域の教育力を活用する。 ・太子町及び太子町内の中学校と連携を図る。 ・学校の教育活動の情報発信に努める。(HPの更新やポスター作成，学校だより「清流(太子清流高だより)」などを定期的に発行する。)